

共に

塩尻市こども教育部男女共同参画・人権課

塩尻市大門七番町4番3号
TEL：(0263) 52-0280 内線3135
(0263) 52-0894 (直通)
FAX：(0263) 54-2705
Eメールアドレス：kyoudou@city.shiojiri.lg.jp

特集

～職場における男女共同参画社会～

- 男性保育士への取材
- 女性運転手への取材
- 市民の集い・相談案内等

国は少子高齢化や経済の活性化に向けて「女性の活用関連法案」を制定し、今後の日本の方向性を明確に示しました。男性、女性と言う性別に左右されない雇用関係は勿論の事、女性が働きやすい労働環境を今以上に推進し、子育て・介護などに代表される男女共同参画社会実現のため「誰にもやさしい社会」「活力ある社会」を目指し、ワークライフバランス(WLB)※1の推進をしています。日本は、先進国の中でも男女共同参画が必ずしも上位ではないと言うのが現実です。このため、男性にも子育て・介護と言った家事への参加を積極的に促し、女性にとっても制度を活用しやすい環境を構築する事に力を注いできています。この様な政治的・社会的な情勢の中で、「女性の方が向いている」「力仕事なので男の方が適している」と思われがちな職種にも性別の壁を越え、自分がやりたいと思ふこの仕事を選択し、取り組んでいる方々があります。

今回はそのような方々の代表として「男性保育士」さん、「女性の観光バスの運転手」さんに取材をお願いしました。率直に今の気持ちや考えを話してくれました。



年長さんと朝の活動

※1 ワークライフバランス(WLB)とは、『仕事と生活の調和した社会』とされ「家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期と言った人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会です。

(内閣府の定義から)

加藤ドライバー 愛車と共に



インフォメーション INFORMATION

「豊かな心を育む市民の集い」参加報告

平成27年12月5日(土) 塩尻総合文化センター



演題 「スポーツから考える人権」
講師 松本山雅FC 山崎武氏



人権週間になんで毎年行われる同集いは例年と異なり、中学生人権作文コンテスト入賞者の表彰・作文の発表の前に、人権擁護委員会の活動が紹介されました。人としての権利を守るため、親身になって問題に取り組んでいることでした。次に、吉田ひまわり保育園の園児たちによる「命は宝物」と「友達の良いものだ」という手話を交えた歌の発表がありました。幼い頃から力を合わせる事や互いを認め合う大切さを教えられている子どもたちの、偏見のない清らかな歌声を聴いていると、将来心豊かな大人に成長した彼らの姿が見えた気がしました。

第二部では、スポーツから考える人権と題し、松本山雅FCユースアカデミーダイレクター山崎武氏による講演がありました。子どもたちが憧れるサッカー界の中に、人権差別という悲しい現実がある事、また、指導者による暴言・暴力がある実態を述べられました。山崎氏は、これからは指導者たちがフェアプレーの原点であるリスペクト、つまり互いを大切に思うことを提唱し、大人がそれを理解して意識を変え、子どもたちに伝えていくことが必須であると語りました。サッカーをこよなく愛する故の強い、「偏見を根底から変革して欲しい」という、指導者としての熱い想いが伝わってくる感動の講演でした。

青木慶子

誰でも分かる性同一性障害のこと

「自分らしく生きる」



講師 長岡春奈氏
女と男21世紀セミナー参加報告
平成27年12月13日(日) えんぱーく4F会議室



今回は、昨年度の女と男21世紀セミナーのシンポジウムで「デートDV・性同一性障害」を実施したところ、「もっと知りたい」とのご意見が寄せられた事を受けて実施されました。講師は昨年度に引き続き長岡春奈さんにお話ししました。長岡春奈さんは、2004年の性同一性障害特例法の施行に伴い「女の子」に戻れることを決意。現在は、女性として生活し、相談や研修に取り組まれています。

講演会では、用語の解説や当事者の苦しみ、そして当事者や家族、企業や自治体など私達が出来た事は何かを自身の体験談を交えながらお話ししていただきました。また、「学校現場では子どもと直接触れ合う教職員が、様々な障害についての理解を深め、子どもが発しているサインをいち早く見取り対応できる様にならなければならない」と話されました。

明るく笑ってご自身の事を赤裸々に話してくれた長岡さん。そこに辿り着くまでの道程は生半可なものではなかったはず。でも当日も駆けつけて歌を一緒に歌ってくれた仲間や、家族の支えが今の素敵な長岡さんに成っているのだと思いました。

今後は、行政の取組みや様々な研修会などの機会を通して、理解者・支援者の輪を広げられればと思います。

中村琴江

編集後記

朝日観光では、社員20人の内女性は2人で、それぞれ社長と従業員と言う立場ながら、お互いを尊重し男性女性を超えた民主的な社風作りに大きな貢献をしていると感じました。「女性は子どもを産み育てると言う経験もしている、多少の過酷な労働条件にも耐えられるのでは」と言う言葉もありました。

赤羽すえみ

中学生人権作文の一文に、「昔は男に役割があり、互いに尊重する事でうまくいっていた。今も、役割を考え、認め合う事が良い社会に繋がる」とあった。若者の中に相手を尊重する気持ちや育ち、人権啓発が息づいている事を感じた。今回の特集記事が読者の視点を変える契機となり、互いを認め合う社会への一助になればと思う。

青木慶子

今回取材した男性保育士さんと女性ドライバーさんは、皆さん様に「好きで選んだ仕事だから頑張る」と言われましたが、毎日の仕事の先に、将来に希望の持てる労働環境や雇用環境の整備が今後更に必要だと感じました。

加藤智子

朝日観光の清澤和恵社長は女性ならではの視点で社内をまとめ、会社を経営し、男性社会の業界で女性ドライバーが生きて活躍する環境を構築していただきました。また、男性保育士の先駆者である北嶋保育士は、慣れない環境に戸惑いながらもそれを克服し、先達者として後輩に道を開かれました。お二人の生き方に感銘を受けました。

川上博昭

お気軽にご相談ください

相談案内

- ♡ 塩尻市女性相談【面接相談は要予約】月～金0263-54-0783 [電話相談・面接相談] 月～金9:00～17:00
- ◇ 県女性相談センター 026-235-5710 ♡ 女性の人権ホットライン(長野地方事務局) 0570-070-810
- ♣ 塩尻警察署(生活安全課:DV相談) 0263-54-0110



～職場における男女共同参画社会へ～

◎「保育士」を目指した理由は？

北嶋：高校の担任から進められたことや自分の性格から考えて保育士に向いていると思い、短大の幼児保育科に進み、この道に入って16年になります。

坂口：工業高校卒ですが、子どもが好きだった事からボランティアで保育園に行った事がきっかけで、人と関わる仕事に就きたいと言う思いが強くなり、幼児教育科に進学しました。今年2年目です。



きたじま たくや 北嶋 拓也さん
さかくち たいしょう 坂口 泰正さん と編集委員

◎ 保育士の仕事で、感じている事柄は？

北嶋：男性ならではのパワーを発揮できる事(力仕事や子どもたちとの遊びの中で力を活かす事など)喜びとやり甲斐を感じる。16年前は男性はほとんどいなくて、戸惑うことが沢山ありましたが、現在は男性職員も増えてきて、とても居心地が良い環境で仕事が出来ています。

坂口：最初は戸惑いの連続だったが、良き先輩の後ろ姿を見て頑張れる。また、男性保育士がいることで父親との繋がりも広がっていくのではないかと考えています。

◎「これから目指したい保育士像」は？

北嶋：園児はそれぞれ個性があり、集団を見る中で更に個々を見て合わせていきたい。また、父母へ子育てに積極的に関わられるような働きかけが出来たらと思う。

坂口：個性豊かな子どもたち一人ひとりに合わせて、対応できる様な保育士になりたい。将来を見据えて、しっかりとした信念を持って仕事に取り組んでいる先輩を見習って、仕事をしたいと思います。

◎ 保育士を目指す人達に伝えたい事は？



高出保育園登園風景

園長先生から

女性が圧倒的に多い職場ですが、二人とも自然に溶け込んでいます。保育園時代の子ども達は人への信頼感が育つ大切な時期です。その子ども達に関わる保育士として、これからも自分の持ち味を生かして頑張りたいと思います。

H27.4	男性保育士数	男性比率
長野県	242人	約3.3%
塩尻市	18人	6.4%

※長野県調べ

北嶋：やり甲斐がある仕事なので、もっと男性の保育士が増えて欲しいと思っていますが、長く続ける覚悟を持ってこの仕事に就いて欲しいと思います。

坂口：男性らしさも発揮できる仕事もあるのでぜひ目指して欲しい。

北嶋：男性の保育士も女性の保育士も子どもの様々な活動に対しての関わりに差は無く、園児一人ひとりに向き合って欲しいと思います。



かとう じゅんこ 加藤 順子さん(ドライバー)
きよさわ かずえ 清澤 和恵 社長さん

◎ 大型車の運転手を選ばれた理由は？

高校生の頃からバス関係の仕事に興味がありました。最初はバスガイドとして入社しました。

◎「肉体的にもきつい職場だ」と思われがちですが？

好きで始めたので「きつい」と思ったことはありません。家族は実父母同居で娘2人は両親が世話をしてくれたので、夫と共働きが出来ました。下の娘は中学2年生ですが、学校の重要な行事は早めに休暇を取って参加ができています。(入学式・卒業式・運動会などです)

◎「女性ならではの」の対応が出来たと思えた事がありますか？

スピードを抑えた優しい運転、後続車に道を譲る、休憩時間の湯茶のサービス等です。逆に、男性ドライバーが気遣って道を譲ってくれたりする事もあります。

◎いつ頃からバスドライバーを始めたのですか？

運転に憧れがあり、大型二種の免許を取り、平成24年からこの会社でドライバーとして勤務しています。当社はドライバーは16名で女性は私一人です。待遇面などでは同一の給与体系(手当等)で、今の仕事に充実感を持っています。日本全国(北は北海道から南は九州まで)何処へでも行きます。初めて行く所は地図で入念にチェックし、後はバスガイド時代に培った勘が大いに役立っています。運転中は眠くなることはありません。

社長さんから

「社員20人・バス17台の会社の社長として頑張っています！」

先代から会社を引き継ぎ、社長に就任して10年になります。子どもも成人し社会人となりましたので、今は社長業に専念し、「お客様第一」に考えて現場に立っています。現場でお客様の声を聞くことを、社員全員の「モットー」として実践してもらっています。

朝の点呼では、アルコールチェックや乗務員の健康チェックは勿論ですが、社員全員の顔を見て、身体や心を気遣っての声掛けをしたりもします。若い社員などは、自分の子どものような気持ちで接しています。

女性は私と加藤ドライバーの二人だけですが、女性ならではの細かいところにも気を配りながら、待遇面でも男女の差が無い、バランスの取れた社風を心がけています。



加藤さん担当の中型観光バス運転席